2026 年 11 月 20 日

阪 急 電 鉄 株 式 会 社
阪急阪神不動産株式会社

大阪・梅田エリアおよび芝田地区のまちづくりの方向性を議論する「芝田地区まちづくり推進会議」が本日開催されました

阪急電鉄は、阪急阪神不動産とともに、旧大阪新阪急ホテル跡地の活用、阪急ターミナルビルの建替、および阪急三番街の全面改修を行う「芝田１丁目計画」の検討を進めています。

本日、行政・民間事業者・学識経験者が大阪・梅田エリアおよび芝田地区のまちづくりの方向性について議論する「芝田地区まちづくり推進会議（以下、推進会議）」が開催されました。また、この推進会議では、大阪・梅田エリアの将来像や芝田地区のまちづくりの方向性とともに、「芝田１丁目計画」についても議論が行われました。

推進会議でのこうした議論を踏まえて、「芝田１丁目計画」を大阪・梅田エリア全体のさらなる活性化や国際競争力強化に資するものとすべく、両社で計画の深度化を図ってまいります。



芝田１丁目計画による開発対象エリア

■「芝田地区まちづくり推進会議」の概要

１．開催日

2026 年 11 月 20 日（金）

２．構成員

行政

国 土 交 通 省	近畿地方整備局　建政部
国 土 交 通 省	近 畿 運 輸 局　交通政策部
大　　阪　　市	北区役所、計画調整局、建設局

民間事業者

阪急電鉄株式会社
独立行政法人都市再生機構
西日本旅客鉄道株式会社
大阪市高速電気軌道株式会社
大阪地下街株式会社

学識経験者

立命館大学理工学部環境都市工学科	教　授	岡井（おかい）　有佳（ゆか）　様
大阪公立大学大学院工学研究科	教　授	嘉名（かな）　光市（こういち）　様
京都大学防災研究所	特定教授	松島（まつしま）　格也（かくや）　様
大阪公立大学大学院工学研究科	准教授	吉田（よしだ）　長裕（ながひろ）　様

（事務局：大阪市・阪急電鉄株式会社・独立行政法人都市再生機構）

3. 内容

別添した資料「芝田地区まちづくり推進会議」をご参照ください。

4.「芝田地区まちづくり推進会議」の位置付けについて

大阪駅周辺は、都市再生特別措置法により、特定都市再生緊急整備地域に指定されており、エリア全体のまちづくりの方針や事業の調整を行うため、官民連携の協議組織として「都市再生緊急整備協議会」および「大阪駅周辺地域部会」が設置されています。このたび開催した「芝田地区まちづくり推進会議」は、この下部組織として芝田地区のまちづくりを議論するために組織されたものです。

（ご参考）「芝田１丁目計画」について

阪急阪神ホールディングスグループは、２０２２年に「梅田ビジョン」を策定し、大阪・梅田エリアを「世界と関西をつなぐ国際交流拠点」として発展させることを目指し、大阪梅田ツインタワーズ・サウスやグラングリーン大阪などの大型プロジェクトをはじめ、様々な取組を推し進めています。

その中でも特に重要なプロジェクトとして位置付けているのが「芝田１丁目計画」です。この計画を通じて、ターミナル駅と周辺エリアが一体となった、「国際交流拠点」にふさわしい複合機能拠点の創出を目指していきます。

以　上

【添付資料】資料「芝田地区まちづくり推進会議」

芝田地区まちづくり推進会議

大阪駅周辺地域の都市再生と芝田地区のまちづくり

開催日　　：令和8年11月20日
主催・事務局：大阪市／阪急電鉄株式会社／独立行政法人都市再生機構

1. 大阪駅周辺における都市再生と今後の方向性
- 当地域の位置づけとまちづくりの方向性
- 都市再生緊急整備地域及びその周辺における更新
- 大阪駅周辺地域における開発動向
- 大阪駅周辺における歩行者ネットワークの形成
- エリアの課題・状況の整理
- まちの基準点
- 大阪駅周辺地域における都市再生の方向性

2. 芝田地区の位置づけ
- 芝田地区のポテンシャルと課題
- 芝田地区のめざすべき方向性

3. 芝田地区における取組
- 芝田1丁目計画の計画概要
- JR-阪急連絡デッキの再整備 - 駅とまちをつなぐ「まちの基準点」の形成-
- 芝田1丁目計画による周辺のまちへの貢献
- 芝田2丁目におけるまちづくりの動き

4. 芝田地区における開発整備方針（素案）

1　大阪駅周辺地域における都市再生と今後の方向性

1　大阪駅周辺地域における都市再生と今後の方向性：**当地域の位置づけとまちづくりの方向性**

上位計画等を踏まえ、①多様な都市機能の集積、②みどり/人中心の空間づくり、③イノベーション拠点の形成の3つの方向性で整備を推進

	目標・方針等	都市機能	都市空間
都市再生緊急整備地域の「地域整備方針」	• 既存の都市基盤の蓄積等を生かしつつ、風格ある国際的な**中枢都市機能集積地**を形成	• 国際的な中枢業務機能、学術・研究機能、商業機能、情報発信機能等の**都市機能のより一層集積した複合市街地**を形成	• 大阪駅周辺地区の交通拠点性、南北・東西方向の交通機能の強化を図るため、**幹線道路を整備**するとともに、**大阪駅北側の駅前広場を新設**
特定都市再生緊急整備地域の「地域整備方針」	• 多様な都市機能が高度に集積する大阪駅周辺において、大阪、関西のみならず**国土の発展、成長をけん引する国際競争力を備えた拠点を形成** • **国際レベルの人材・企業の活動の受け皿**となり、**これを支える空間/基盤を整備**するとともに、この地域に集まる多様な人々の交流を通じ、**新たな価値・情報・文化等を創出する知的創造拠点機能**を強化	• 海外企業の誘致に向けた環境整備につながる都市開発等を促し、**国際的な中枢拠点機能等の集積をさらに促進** • うめきた先行開発区域では、上記機能の集積や立地特性を生かし、**「感性」と「技術」が融合し新たな知的価値の創出をめざす知的創造拠点**ナレッジキャピタルを形成	• うめきた２期区域では、斬新で魅力ある都市空間を創出し、防災機能を備えた**「みどり」を軸としたまちづくり**をめざす • うめきた地区では、土地の高度利用と合わせ、**緑化やオープンスペースの積極的な導入**による良好な都市環境を創出
大阪のまちづくりグランドデザイン	• 世界の大都市としての中枢を担い、人やモノ、情報を集め波及させる**業務・商業・文化などの高次都市機能のさらなる集積**や、国内外から多くの人々を迎え入れる関西のゲートウェイとして**魅力的な都市空間の形成**を図る	• **高次都市機能の更なる集積**による国際的な中枢拠点の形成	• 国内外から人を迎え入れる比類なき魅力を備えた**「みどり」空間の形成** • 駅とまちが一体となって都市の機能をつなぐ**人の空間を重視した都市空間**の形成 • うめきた周辺（中津、大淀、茶屋町など）へのまちづくりの波及による**回遊性の向上**

大阪駅周辺における
まちづくりの3つの方向性

①多様な都市機能の集積

業務・商業・文化・交流等の高次都市機能を導入・高度化

• グランフロント大阪、グラングリーン大阪、大阪ステーションシティ 等

大阪駅周辺における
既存開発等




②みどり/人中心の空間づくり

歩行者ネットワーク・広場・みどりで回遊性と滞在性を高める

• うめきた公園、駅前広場、公開空地、地下・地上・デッキ 等

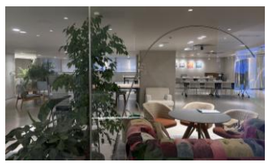



③イノベーション拠点の形成

知的交流・共創・人材育成の場を形成する

• U-FINO、FUTRWORKS、NORIBA10 等

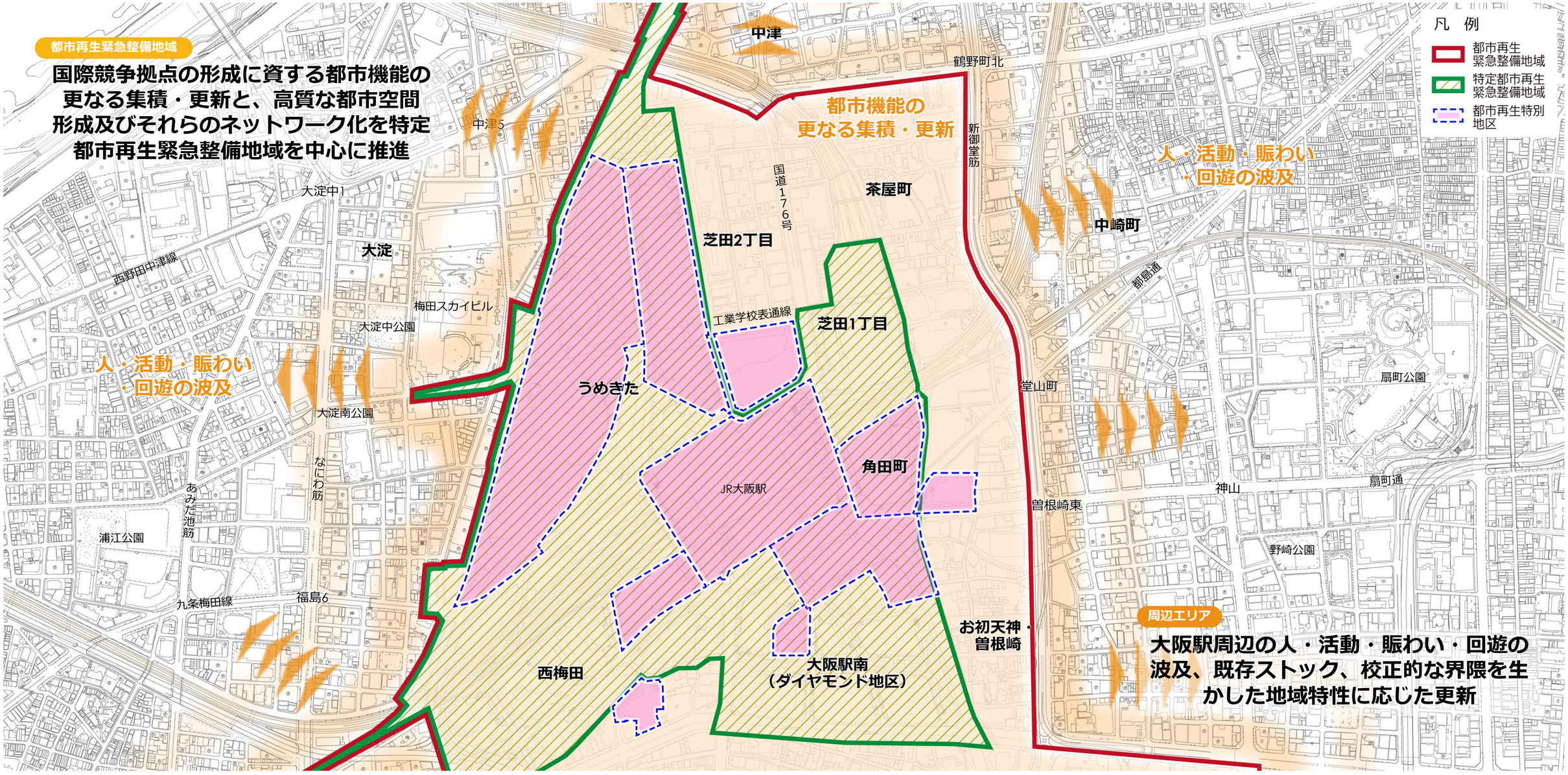




1　大阪駅周辺地域における都市再生と今後の方向性：**都市再生緊急整備地域及びその周辺における更新**

大阪駅周辺地域の今後の方向性として、都市再生緊急整備地域内と周辺エリアに区分し整理
都市再生緊急整備地域内⇒国際競争力を支える都市機能の更なる集積・更新と、高質な都市空間形成及びそれらのネットワーク化を重点的に推進
周辺エリア⇒大阪駅周辺の人・活動・賑わい・回遊の波及、既存ストック、個性的な界隈を生かした地域特性に応じた更新

■都市再生緊急整備地域とその周辺エリア



特定都市再生緊急整備地域内を中心とした機能更新/集積＋人中心の空間づくり	来街者・滞在人口・地域内回遊の増加	人・活動・賑わい・回遊の波及	周辺エリアの地域特性に応じた機能更新

1　大阪駅周辺地域における都市再生と今後の方向性：**大阪駅周辺地域における開発動向**

大阪駅の西側は、うめきた2期等の都市開発により都市機能、歩行者空間、公園・広場等の整備が進む。一方、東側の芝田地区周辺は、今後の都市再生の展開が待たれる。特に、うめきたや大阪駅と茶屋町のつながりを強化し、周辺エリアにも波及効果を生む視点が必要

■主な大規模開発の状況

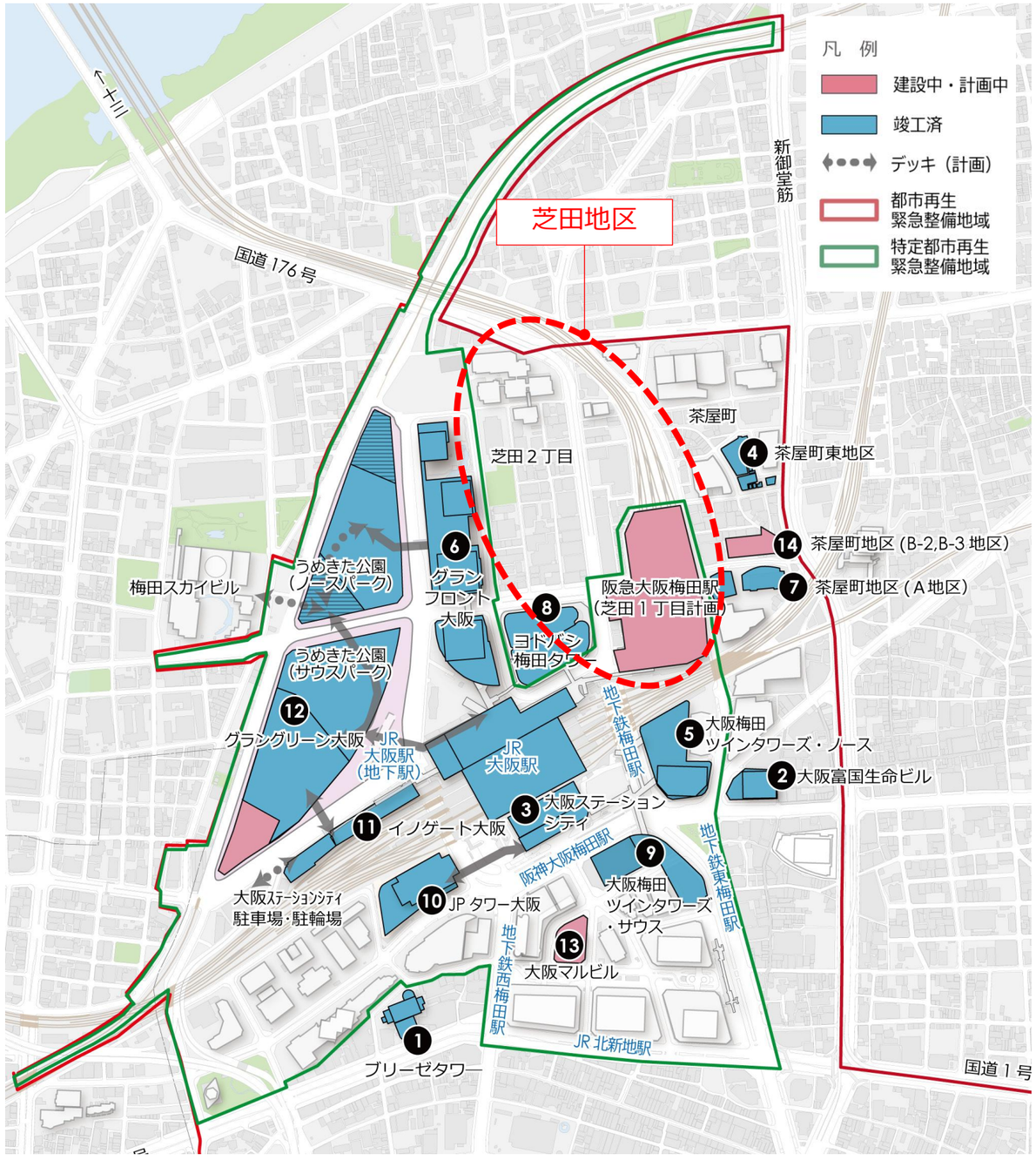
プロジェクト名	竣工・開業等	主な用途	活用制度等
❶ ブリーゼタワー	2008年 7月	オフィス・商業・劇場	都市再生特別地区
❷ 大阪富国生命ビル	2010年11月	オフィス・商業・学校	都市再生特別地区
❸ 大阪ステーションシティ＊ ・ノースゲートビルディング ・サウスゲートビルディング	2011年 5月	オフィス・商業・シネコン・大丸百貨店・ホテル	都市再生特別地区
❹ 茶屋町東地区	2011年 6月	住宅・商業・業務（学校含む）	第一種 市街地再開発事業
❺ 大阪梅田ツインタワーズ・ノース（梅田阪急ビル）＊	2012年11月	阪急百貨店・オフィス	都市再生特別地区
❻ グランフロント大阪＊	2013年 4月	オフィス・商業･ホテル・研究施設・住宅等	都市再生特別地区
❼ 茶屋町地区（A地区） ・A-1：ヤンマー本社ビル ・A-2：OIT梅田タワー	2014年 9月 2016年10月	オフィス・商業・大学（大阪工業大学）	土地区画整理事業 再開発等促進区
❽ ヨドバシ梅田タワー＊	2019年11月	商業・ホテル	都市再生特別地区
❾ 大阪梅田ツインタワーズ・サウス＊	2022年 2月	阪神百貨店・オフィス・カンファレンス	都市再生特別地区
❿ JPタワー大阪	2024年 3月	オフィス・ホテル・劇場・商業	都市再生特別地区
⓫ イノゲート大阪＊	2024年 7月	オフィス・商業・広場・駅コンコース等	民間都市再生事業 計画認定
⓬ グラングリーン大阪＊	2024年9月先行まちびらき 2027年度全体開業予定	オフィス・商業・ホテル・MICE 住宅・イノベーション・公園等	都市再生特別地区
⓭ 大阪マルビル建替PJ	2030年開業予定	オフィス・ホテル・ホール・商業	都市再生特別地区
⓮ 茶屋町地区（B-2,B-3地区）	2031年度 事業完了予定	オフィス・ホテル・商業	市街地再開発事業 再開発等促進区

※ 都市再生緊急整備地域指定（2002年7月）以降に都市計画決定・変更又は民間都市再生事業計画認定が行われた主な事業を掲載。
＊民間都市再生事業計画認定事業





⓬グラングリーン大阪



1　大阪駅周辺地域における都市再生と今後の方向性：**大阪駅周辺における歩行者ネットワークの形成**

都市開発等より、重層的な歩行者ネットワークが着実に整備されてきた
今後もエリア間の回遊性向上に向け、さらなるネットワークの拡充が期待される

地下

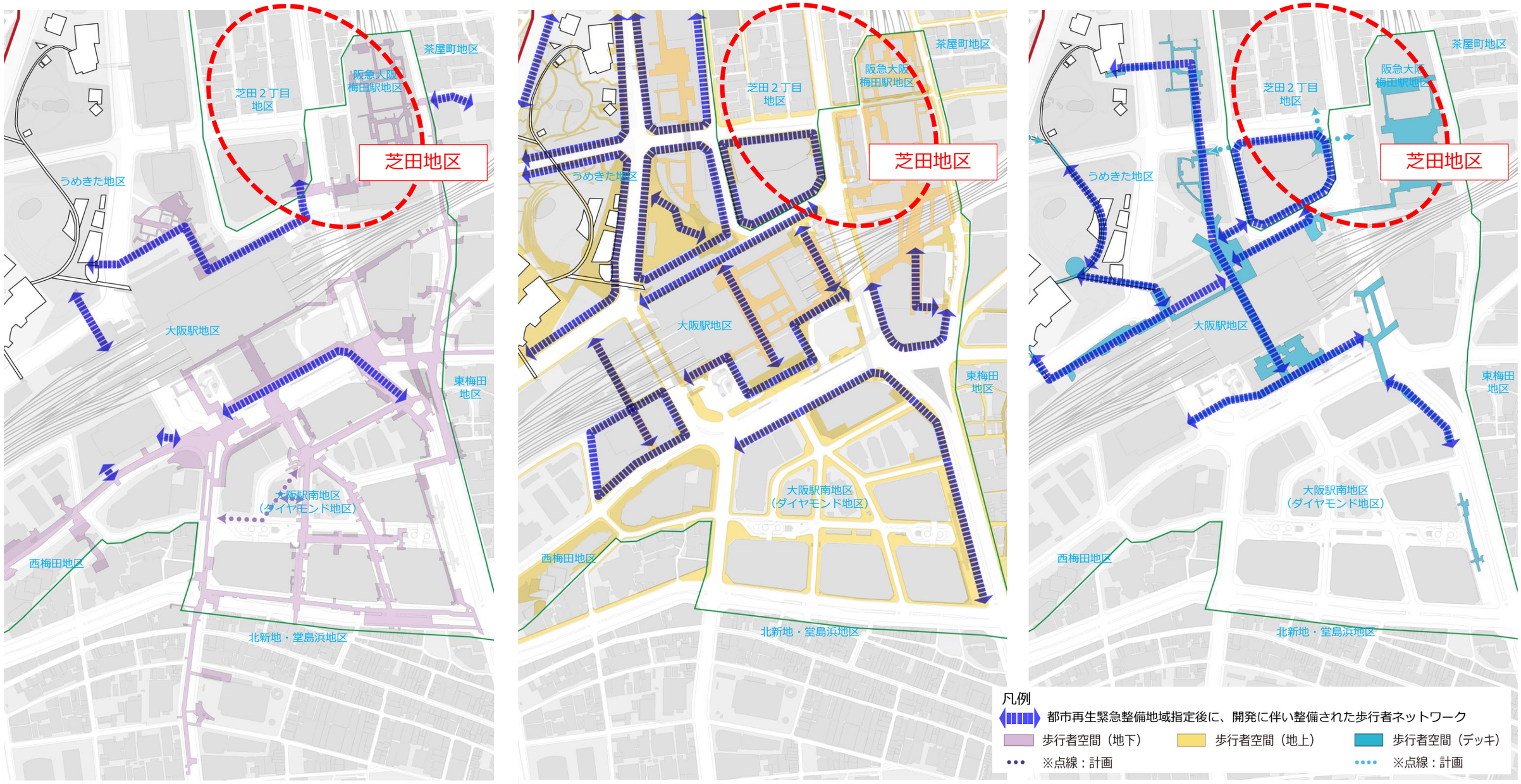
・乗換動線と回遊動線がメトロ梅田駅北改札及び南改札前に集中
・南北唯一の動線上にも乗換動線と回遊動線が混在

地上

・乗換動線と回遊動線が阪急南北コンコースに集中
・JR大阪駅御堂筋口周辺にも乗換動線が集中し混在がみられる

デッキ

・乗換動線と回遊動線がJR-阪急連絡デッキに集中
・東側にある茶屋町等へのアクセス動線が弱い



1　大阪駅周辺地域における都市再生と今後の方向性：**エリアの課題・状況の整理**

大阪駅周辺地域の状況・課題について、
都市機能・都市空間・イノベーション等の分野ごとに整理

大阪駅周辺の状況・課題

①多様な都市機能の集積

都市機能の集積・高度化

- JR大阪駅を中心に**<u>都市機能が一体的に集積</u>**
- 商業・業務等の都市機能が充足
- 芸術やアートなどの文化を日常的に感じられることや、他と**<u>差別化につながる環境・都市機能の充実</u>**が重要

②みどり/人中心の空間づくり

魅力ある公共空間の形成

- 地下・地上・デッキの**<u>3層を結ぶ歩行者ネットワーク</u>**が形成
- 公共の道路空間等で**<u>魅力ある空間整備</u>**が進展
- 景観的なデザインやみどりの確保など**<u>さらなる空間の質向上</u>**が重要
- まとまった公園・緑地・広場等が**<u>うめきた地区等に限られる</u>**
- 交通広場（交通乗降場）が分散して配置

③イノベーション拠点の形成

イノベーション機能の導入

- **<u>イノベーション関連機能・拠点の形成が進展</u>**・多様な企業・人材等が集積
- イノベーション関連機能は、**<u>標準化・一般化</u>**してきていることが課題
- 個々の機能・拠点にとどまらず、**<u>多様な主体の交流・連携を促す</u>**ことが必要

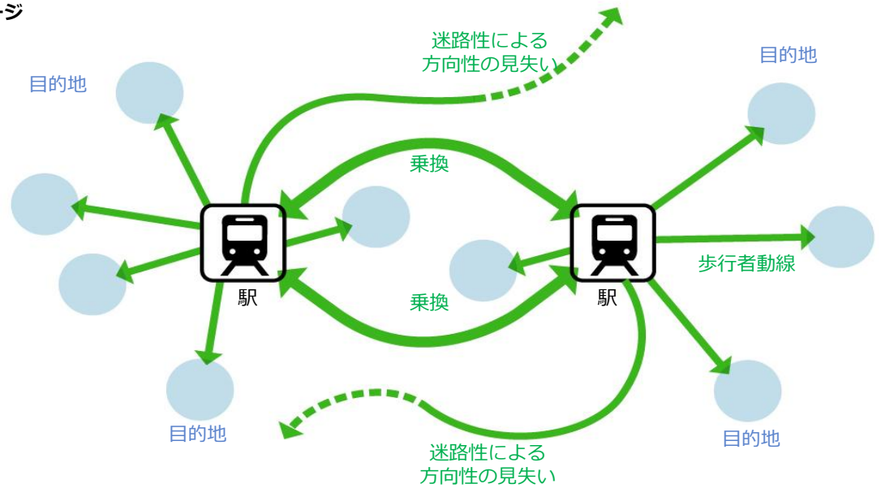
1　大阪駅周辺地域における都市再生と今後の方向性：**まちの基準点**

3層の歩行者空間が重層し、地上では幹線道路が交わり見通しが良好なJR大阪駅の四隅は、
大阪エリア全体のイメージアビリティ*を高める「まちの基準点」としての空間づくりが求められる

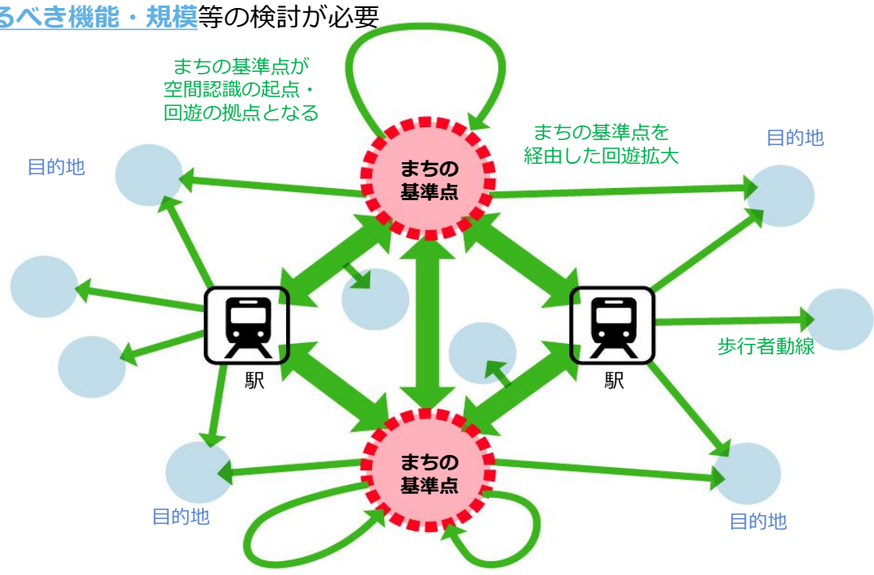
考え方

・来訪者の回遊を促すには、歩行者空間の楽しさが重要であり、偶発的に多様な空間・体験に出会える迷路性（地下街等）は大阪のまちの魅力の1つ。
・一方で、土地勘のない海外来訪者等には迷路性がデメリットになり得るため、**まちのイメージアビリティ*の向上**は快適性・安心感を高める**「公共性」**につながる
・駅前など回遊の拠点となる場所は**イメージアビリティ*の高い「まちの基準点」**として、**パブリックな広場**等による大胆な空間づくりを行う
　→**地下・デッキ・地上の3層が重層し、見通しが良好な大阪駅の四隅**は「まちの基準点」
　→現在は乗換動線である**JR-阪急連絡デッキは、駅周辺開発に合わせて「まちの基準点」として整備**
・将来像の具体化に向け、民間開発と連動しながら**公共空間としての必要性、官民の役割分担、法的位置づけ、備えるべき機能・規模**等の検討が必要

現況イメージ



将来イメージ



*イメージアビリティ：まちや空間の形・色・配置などが、見る人に、その姿について明瞭で強いイメージを抱かせる性質。（参考）Kevin Lynch, The Image of the City, 1960, p.9（原著の定義・説明をもとに要約）

参考事例等

・東京 虎ノ門ヒルズ駅 / T-デッキ：
国道上空広場と複数の民間敷地内広場を連携して整備することで、制約の多い立地条件の中でも「まちの基準点」となる大きな広場空間を創出





・ニューヨーク タイムズスクエア周辺道路空間再編：
道路空間再編により広場空間を生み出し、まちの活動を見渡せる魅力的で記憶に残る「まちの基準点」を作り出している





1　大阪駅周辺地域における都市再生と今後の方向性：**まちの基準点**

世界中からの来訪・回遊・滞在を誘引するため、エリア全体のイメージアビリティを高める「まちの基準点」としての空間づくりを目指す
「まちの基準点」間は視線だけではなく、歩行者デッキや地下道等の整備により空間的にもわかりやすくつながりつつある

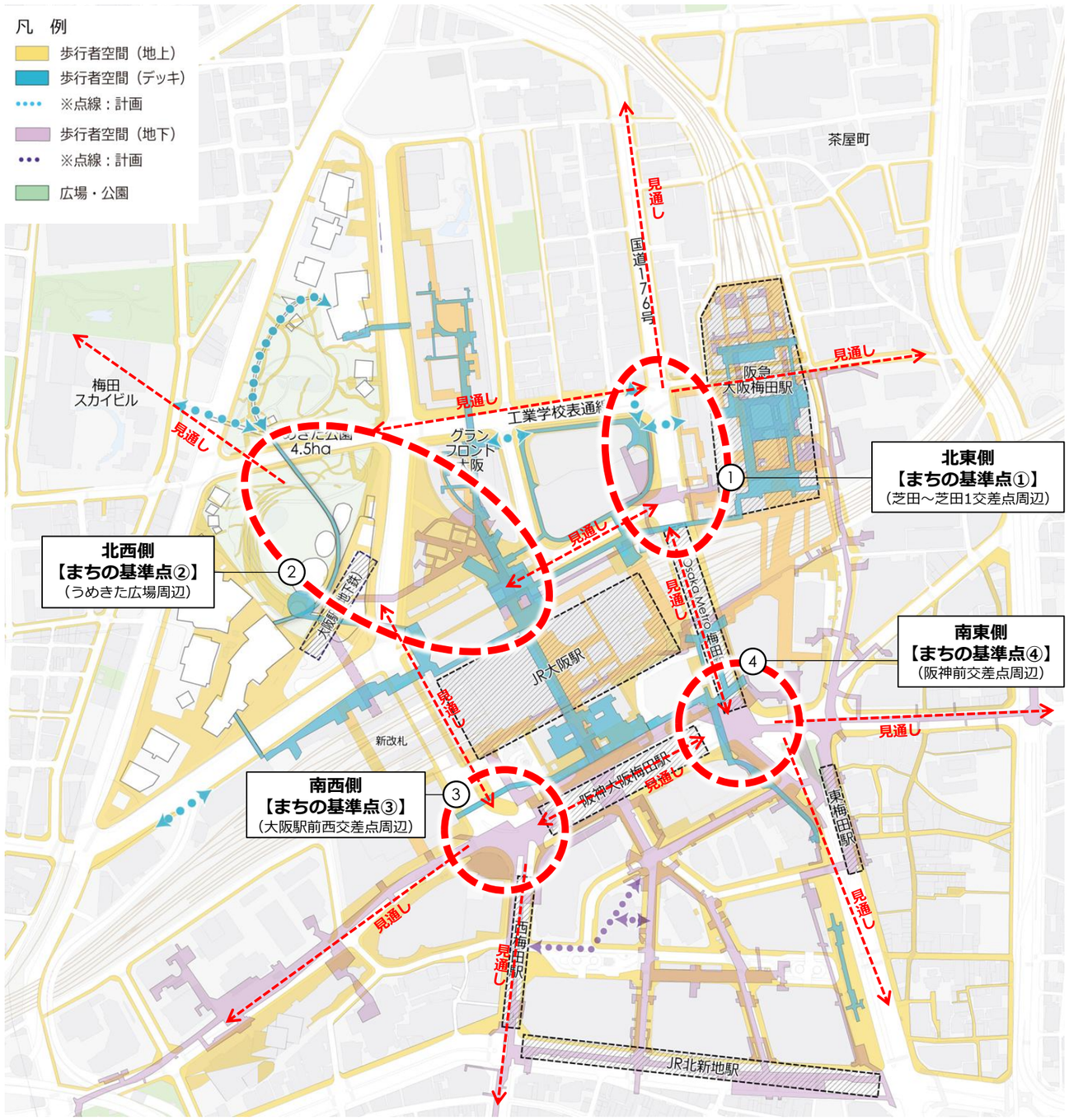
大阪エリアの街の基準点の現況


① 北東角（阪急梅田駅・芝田交差点・芝田1交差点）


② 北西角（大阪駅・うめきた広場・うめきた公園）


③ 南西角（梅田3丁目計画・西梅田）


④ 南東角（阪急百貨店・阪神百貨店・御堂筋）




④⇔① 歩行者空間は地上（歩道）のみ。JR高架下はシェルターがあるため閉鎖的な空間。


①⇔② 地下・地上・デッキで歩行者空間が連続。


②⇔③ 歩行者空間は地上（歩道）のみ。KITTE大阪-イノベート大阪間にて貫通通路が整備。


③⇔④ 民間開発に合わせて整備された歩行者空間で地下・地上・デッキで歩行者空間が連続。

1 大阪駅周辺地域における都市再生と今後の方向性：**大阪駅周辺地域における都市再生の方向性**

①多様な都市機能の集積

うめきたをはじめとする都市開発により、
業務・商業・宿泊・交流等の**多様な都市機能が集積**
▽
国際競争力を支える都市機能の更新・高度化
の更なる推進

②みどり/人中心の空間づくり

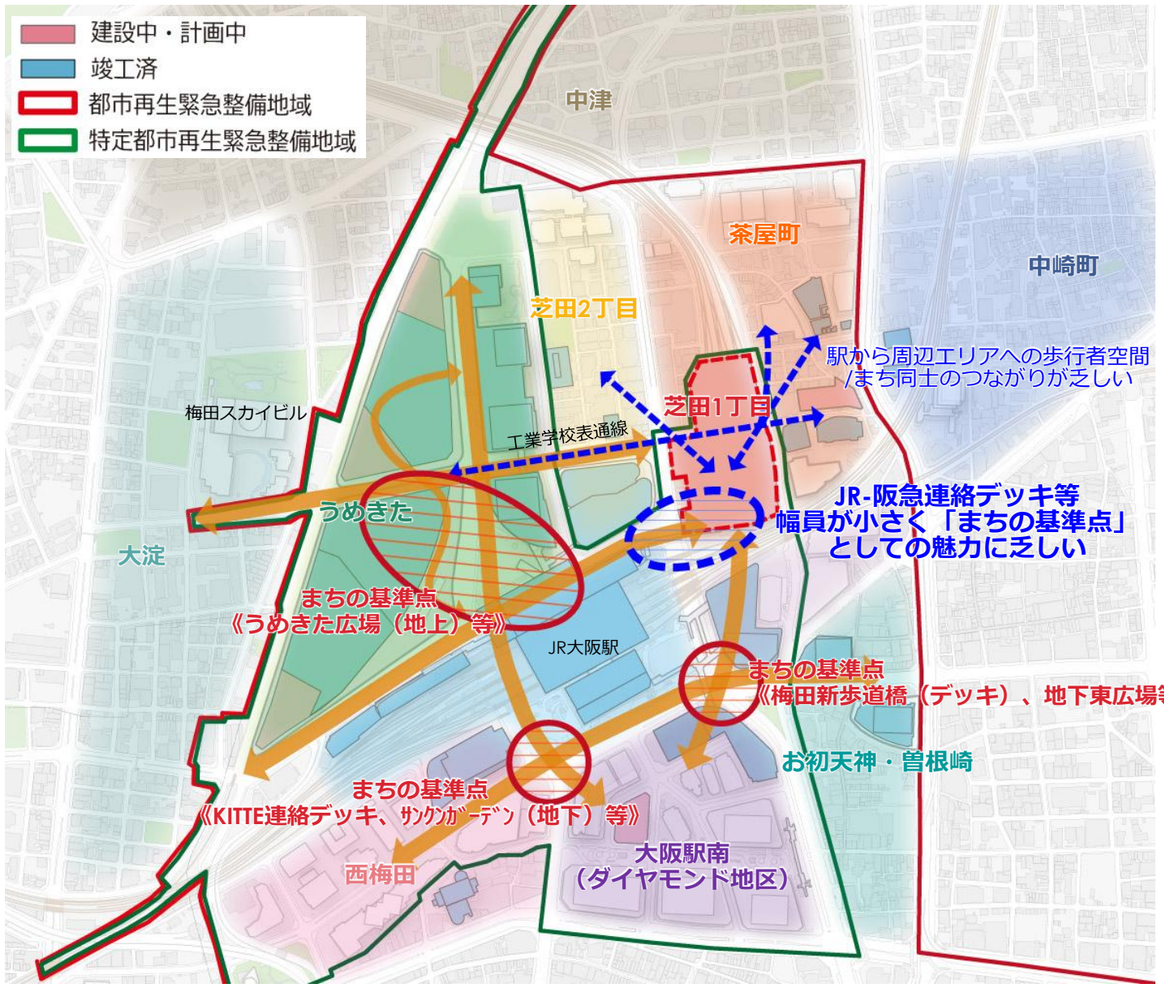
みどりに加え、うめきたやJR大阪駅の四隅（北東角のJR阪急間を除く）等に、
広場空間が整備される等、人中心の空間づくりが進展
▽
駅・まち・周辺のまちをつなぐ
人中心の公共空間と回遊ネットワークを形成

③イノベーション拠点の形成

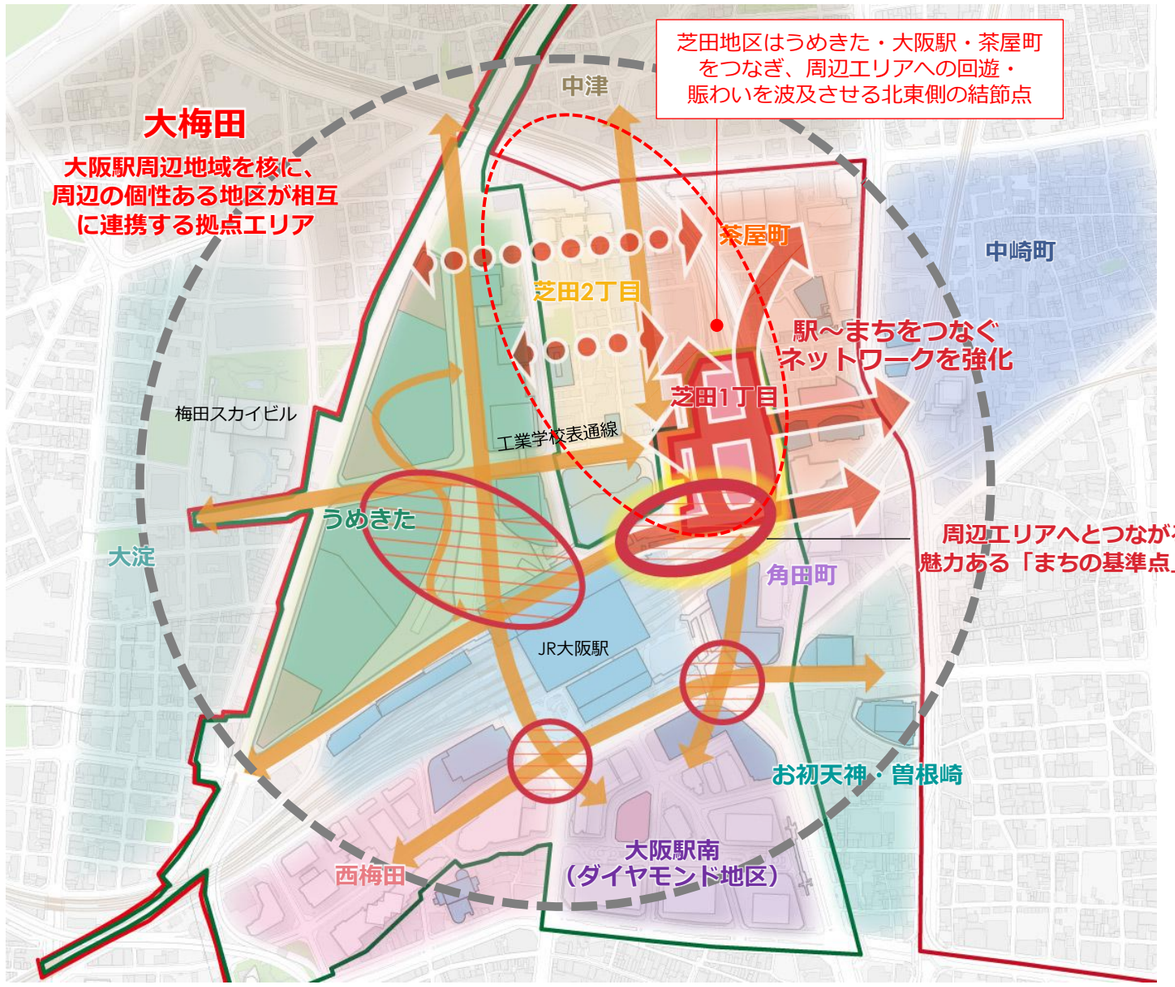
ナレッジキャピタル、大阪イノベーションハブ等が開業し、
イノベーション創出の素地ができつつある
▽
大学・企業・文化・人材育成等の連携、イノベーション創出環境
を**エリア全体へ展開**

大阪駅周辺地域で蓄積してきた都市機能・みどり／人中心の空間・イノベーションを駅～まちをつなぐネットワークを介してエリア全体から周辺へ展開し、人・活動・投資が循環する「大梅田」の形成をめざす

現況 多様な個性あるエリアが徒歩圏に集積する一方、エリア間の回遊に課題



将来像 **駅・拠点・周辺エリアが相互につながる大梅田へ**



2　芝田地区の位置づけ

2 芝田地区の位置づけ：**芝田地区のポテンシャルと課題**

芝田地区はターミナル駅と界隈性が近接し、多様な人材が交差するエリアである。一方、駅～まちをつなぐ回遊性やみどり/滞在空間、芝田の特徴を活かすイノベーション拠点が不足しているため、これらを拡充し、その効果を周辺へ波及させることが求められる

■芝田地区の特徴

①多様な都市機能の集積

ポテンシャル

- 阪急大阪梅田駅を中心とした商業・業務の集積と、歩いて楽しめる芝田2丁目の**界隈性が近接**
- 近接する茶屋町を中心に**文化/エンタメ施設**が集積し、**多彩なイベントが展開**
- 駅周辺は沿線利用者をはじめ、**多様な来街者が行き交い**、新たな交流や活動を生み出し得る





課題

- 駅と周辺エリアとの機能・空間の連携が弱く、**エリア間の回遊につながっていない**
- 施設やイベントが**個別・一過性**にとどまり、日常的な活動やエリア価値の向上に波及しにくい
- 芝田を目的に訪れ、滞在したくなる**「芝田ならでは」の魅力がみえにくい**

②みどり/人中心の空間づくり

ポテンシャル

- 阪急大阪梅田駅周辺には、地下・地上・デッキの**重層的な歩行空間**が形成
- ビッグマン前広場やUMESHIBA BASE等、**回遊・交流・滞留を生み出す空間が点在**
- うめきたのみどりと芝田2丁目・茶屋町の路地・路面店が連続する、**ヒューマンスケールな界隈性のあるまちが近接**





課題

- 地下/地上/デッキをつなぐ動線や、**駅～駅、駅～まちへの動線が分かりにくい**
- 駅施設の制約でまとまった空間確保が難しく、**みどりや滞留空間が不足**
- 駅間は乗換中心で、**芝田2丁目や茶屋町への回遊/滞在に課題**

③イノベーション拠点の形成

ポテンシャル

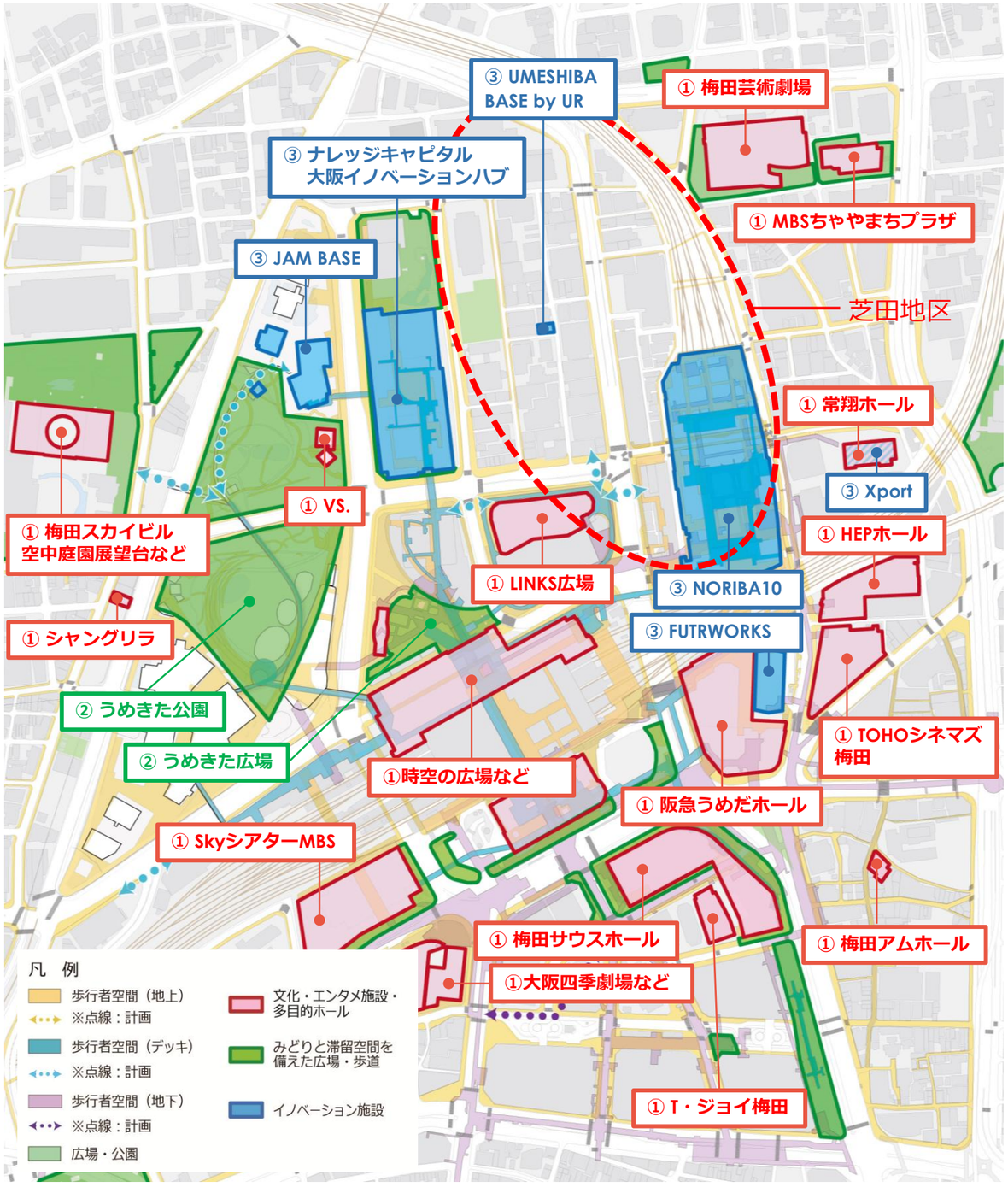
- ターミナル駅を有する芝田1丁目は、**多様な来街者が新たなコンテンツに触れる機会を生み出せる立地**である
- 芝田2丁目には専門学校やUMESHIBA BASE等が集積し、**人材育成・地域活動の基盤**がある
- 上記に加え、茶屋町には文化機能が立地し、**知的交流・文化活動とも連携できる環境**にある





課題

- **多様な駅利用者**を**交流/共創/新たな活動へつなぐ場や取組**が少ない
- **芝田地区と周辺エリアを横断する地域活動が限定的**
- 周辺の既存拠点との**役割分担**と、芝田地区ならではの**イノベーションのテーマが不明確**



2 芝田地区の位置づけ：**芝田地区のめざすべき方向性**

（大阪駅周辺地域の方向性）

①多様な都市機能の集積

（芝田地区の特徴）

- 阪急大阪梅田駅を中心とした商業・業務機能の集積
- 茶屋町をはじめとする文化/エンタメ施設の集積
- 駅周辺に行き交う多様な来街者による賑わい・交流

（芝田地区の方向性）

駅を核とする商業/業務/宿泊機能の更なる集積と周辺のまちと連携した地区の魅力強化

②みどり/人中心の空間づくり

- 地下・地上・デッキをつなぐ重層的な歩行空間が形成
- ビッグマン前広場等、回遊・交流・滞留を生み出す空間が点在
- うめきたのみどりと界隈性のある芝田2丁目等が近接

駅と芝田2丁目/茶屋町を重層的につなぎ、みどりのシンボル空間として回遊・滞在空間の形成

③イノベーション拠点の形成

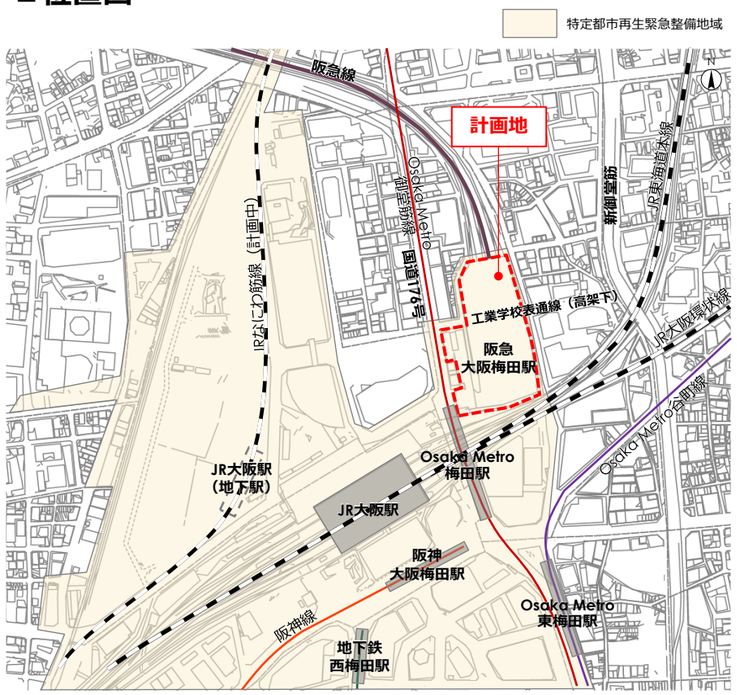
- 多様な来街者に新たなコンテンツを発信できる立地
- 専門学校/小規模オフィス等の人材育成・地域活動基盤がある
- 茶屋町界隈に広がる知的交流・文化活動との連携可能性

梅田ならではの新たなコンテンツの発掘・発信・育成に資するイノベーション機能の導入

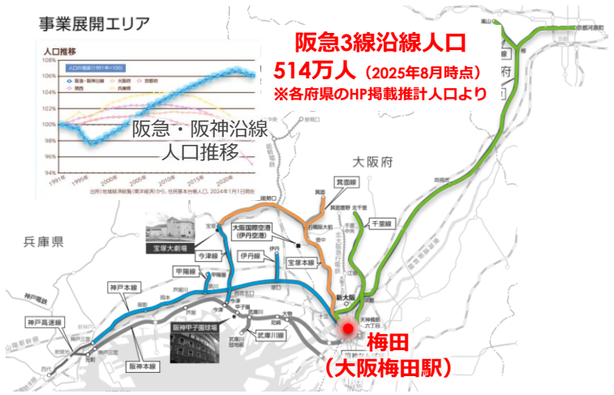
3　芝田地区における取組

3 芝田地区における取組：**芝田1丁目計画の計画概要**

■位置図



■阪急大阪梅田駅の沿線



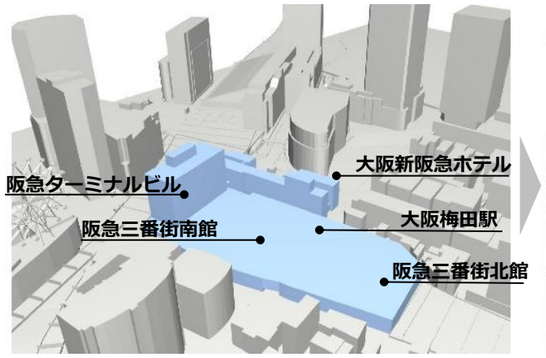
現状は、阪急大阪梅田駅（50万人/日）、大阪新阪急ホテル、阪急ターミナルビル及び阪急三番街により形成

■計画概要

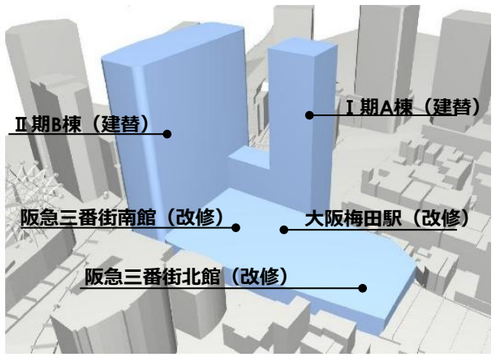
名称	芝田1丁目計画
計画地	大阪府大阪市北区芝田1丁目1番ほか
地域地区	商業地域、防火地域
指定容積率	600%
指定建蔽率	80%
敷地面積	約　33,420㎡
建物構成	オフィス、商業、宿泊機能、鉄道施設等

■整備イメージ

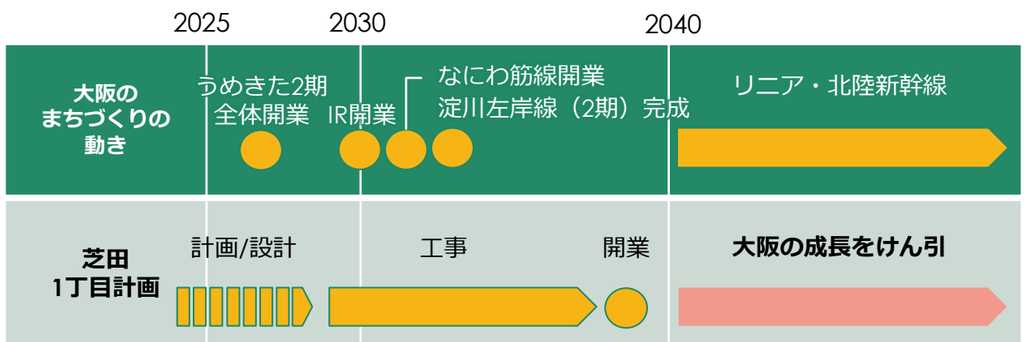
既存建物イメージ（茶屋町側より）



将来建物配置イメージ（茶屋町側より）



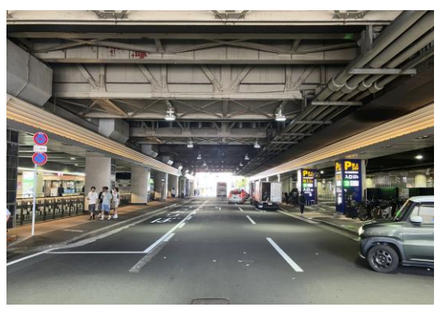
■開発スケジュール



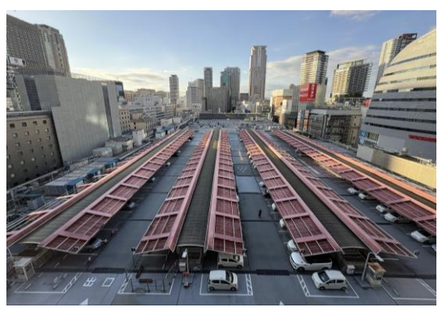

阪急ターミナルビル


大阪新阪急ホテル


阪急大阪梅田駅


工業学校表通線（高架下）


国道176号


駅屋上駐車場

※検討段階であり、各施設の内容、面積、位置、範囲等は今後の深度化検討、関係者協議により変更になる可能性があります

3 芝田地区における取組：**芝田1丁目計画の計画概要**

■めざす将来像・コンセプト

「交差」から「交流」に導く駅まち空間

出会いと癒しを生む価値創造の場

重層的な人の広場と交流の仕掛けが
ゆとりを生み出し、予想外の出会いや
癒しを通じて新たな価値を創造する

忘れられない感動体験を生む舞台

大阪梅田を彩るユニークな体験と
エンターテインメントを提供し、
多様な人々との交流を促進する

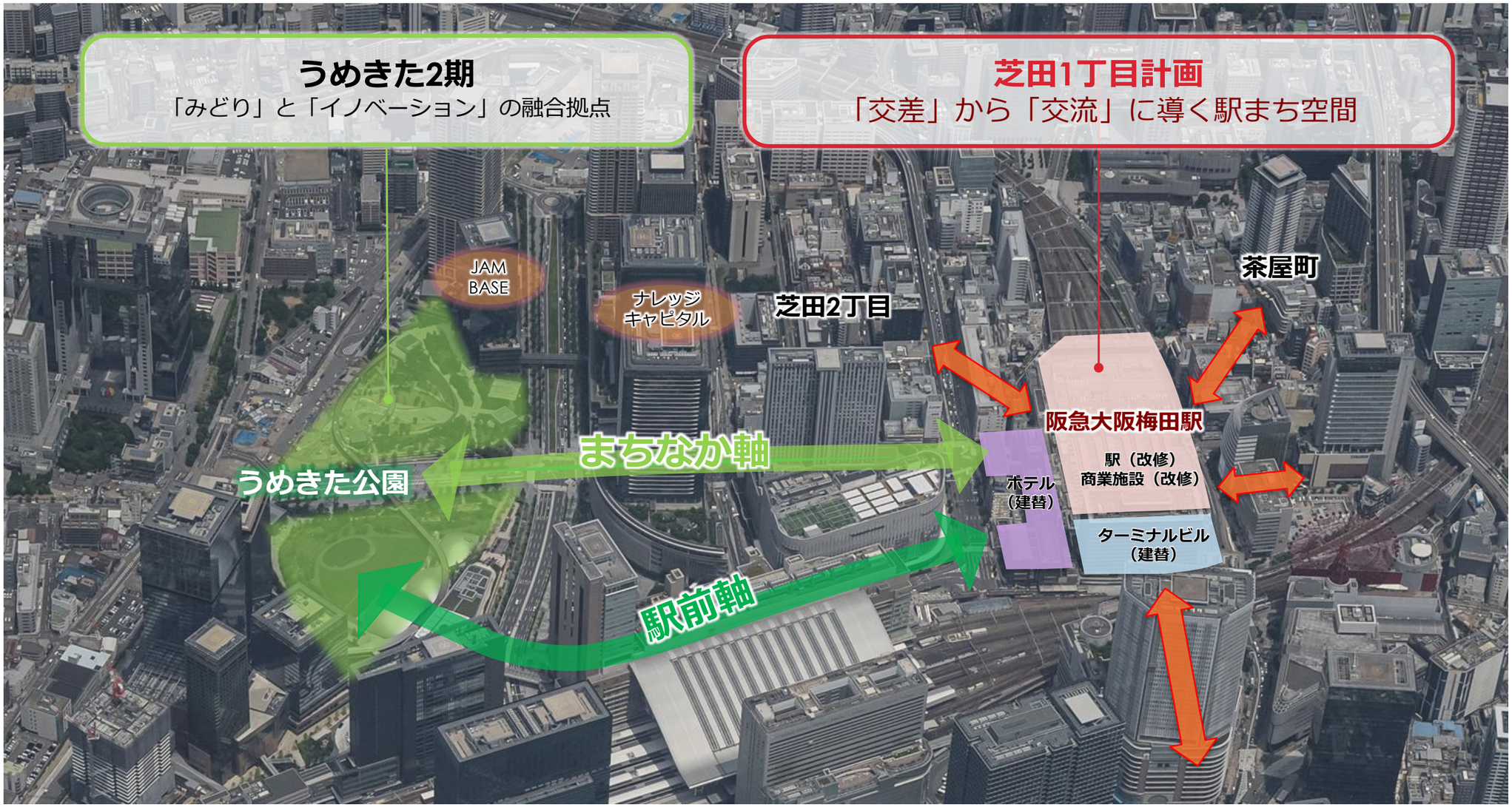
**新たな価値共創を生む
交流のフィールド**

「うめきた」とも連動し、
国内外の事業者や沿線大学が集い、
未来を語り合い価値を共創する

新しい生活文化が生まれる起点

大阪梅田に、沿線に、そして
海外に様々な人と双方向でつながり
新たな生活文化が生まれる

人の広場を核に、駅と駅/駅とまち/まちとまちをつなぐことで、出会いと体験がまちの文化を育み、新たな価値を生み、世界とつながる

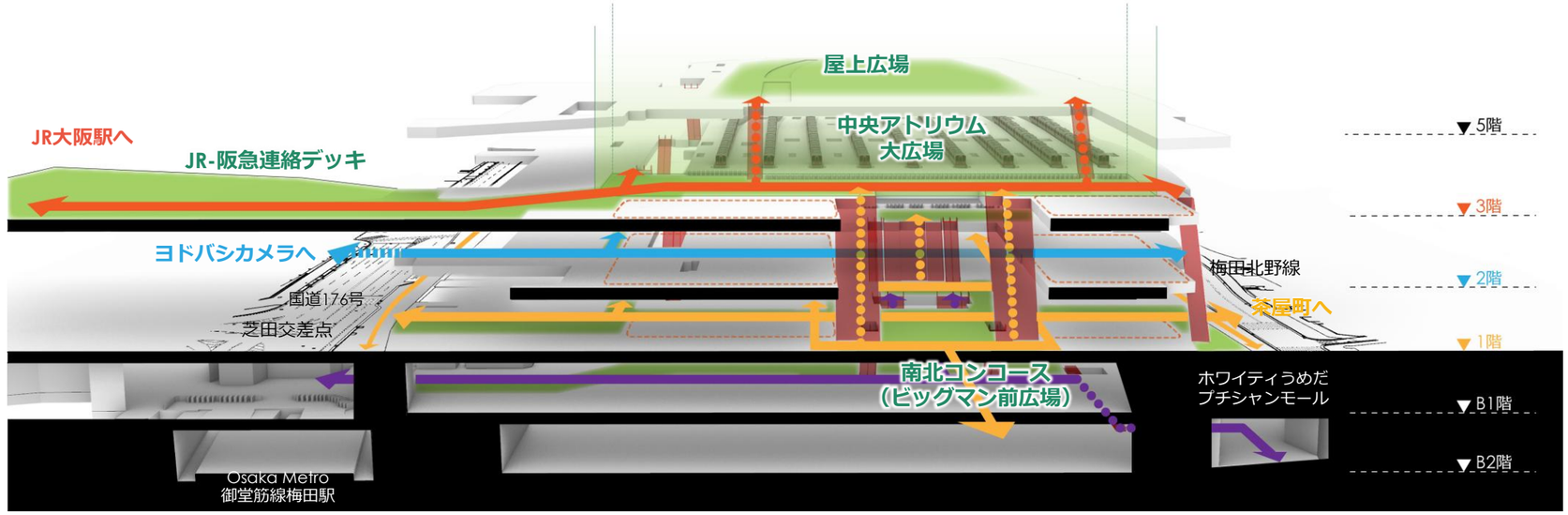


3 芝田地区における取組：**芝田1丁目計画の計画概要**

■主な整備概要

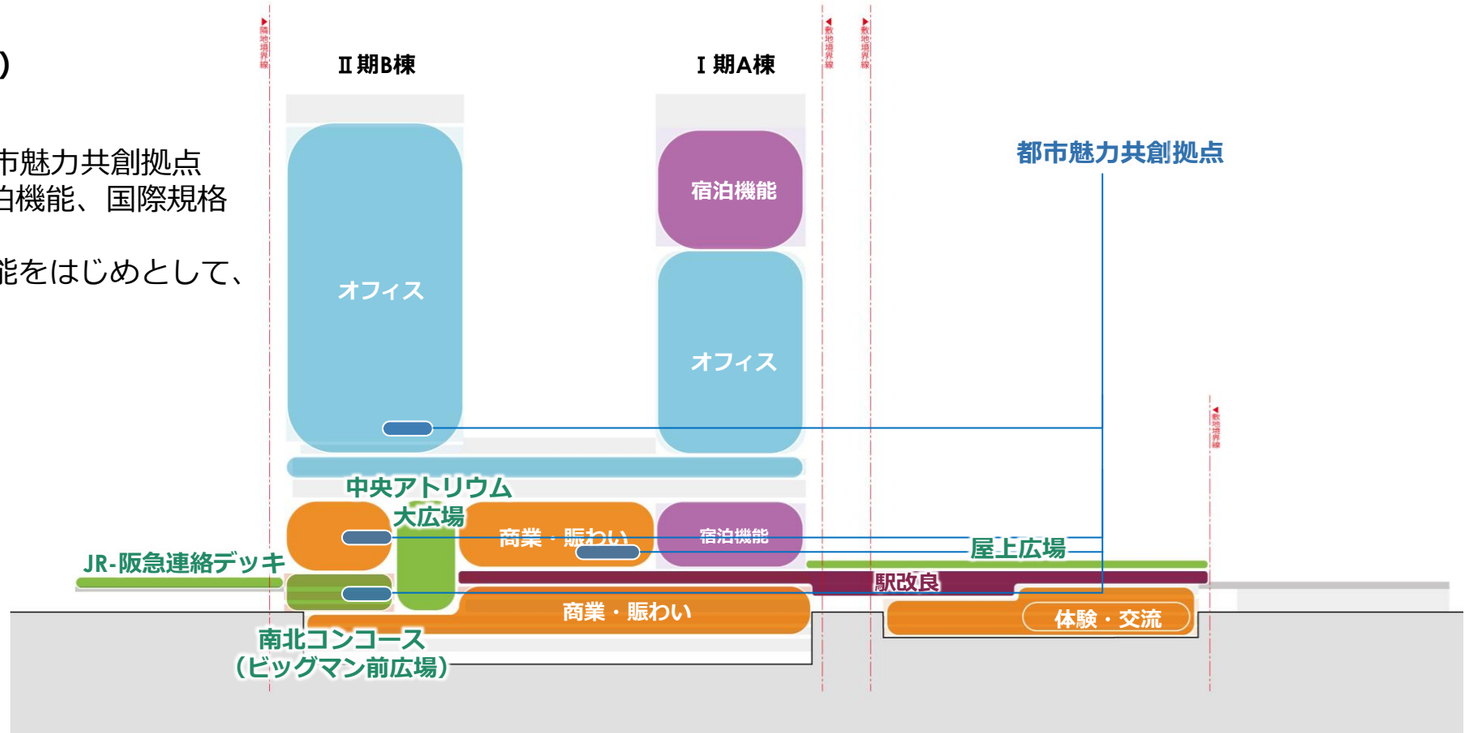
「人の広場」を中心とした周辺の駅まちをつなぐ基盤整備
（［屋上・屋内広場、JR-阪急デッキ、貫通通路、上下結節等］）

2F・3F改札はもとより、地下階～駅屋上の各レベルに東西南北のエリアをつなぐ通行や滞留の空間（屋上・屋内広場、JR-阪急連絡デッキ、貫通通路、上下結節等）を整備し、訪れたくなる居心地の良い「人の広場」を形成



国際競争力強化に資する都市機能
（「都市魅力共創拠点」、「宿泊機能」、「国際規格オフィス」等）

・大阪梅田の都市再生と大阪の国際競争力強化に貢献するため、都市魅力共創拠点（イノベーション施設等）を中心に、大規模体験・交流空間、宿泊機能、国際規格オフィス等の多様な都市機能を導入
・世界水準のビジネス環境を整備することで、次世代産業や金融機能をはじめとして、国内外の企業・投資を呼び込み、大阪全体のさらなる成長を牽引



※検討段階であり、各施設の内容、面積、位置、範囲等は今後の深度化検討、関係者協議により変更になる可能性があります

3 芝田地区における取組：JR-阪急連絡デッキの再整備 -駅とまちをつなぐ「まちの基準点」の形成-

世界中からの来訪・回遊・滞在を誘引するため、見通しの良い駅前の空間特性を最大限活かした
大阪駅周辺地域の回遊性・イメージアビリティを高める「まちの基準点」として、滞留空間等を兼ね備えたデッキ空間を目指す

「まちの基準点」の現況

駅と駅の関係性

- **地下鉄駅やJR大阪駅への乗換動線**として利用されており**混雑**がみられる
- JR・阪急・地下鉄の駅が異なる高さに位置し、**駅間の乗換には上下移動**を伴う
- 地下鉄の改札前は**滞留空間が乏しく、混雑**が見られる



駅～まち～まちの関係性

- まちを見渡せる位置にある一方、地下・地上・デッキの3層に渡って動線が重なり、**周辺のまちへの方向を把握しにくい**
- 地上部は車中心の空間で、**快適に歩き、楽しめる空間が限定的**
- JR-阪急間の移動は乗換動線が大半を占め、茶屋町等の**周辺のまちへの回遊につながりにくい**



まちの顔・特徴としての役割

- まちに開かれた場所にある一方、通行が中心で、人が立ち止まり、その**賑わいが大阪梅田の駅前風景として表れる余地**が限られる
- JR大阪駅周辺はうめきた広場のような**象徴的な広場空間**が整備されている一方、「まちの基準点」には**広場空間が少ない**



「まちの基準点」が備えるべき役割

駅と駅を分り易く快適につなぐ
（高い交通結節性）

例： ＃大きな通行量を処理するゆとりある通行空間
＃3層を視覚的につなぐ縦動線　＃シームレスなサイン　etc..

駅とまち・まちとまちを広くつなぐ
（まち全体の回遊促進）

例： ＃周辺のまちへとつなぐ魅力的な歩行空間や情報発信
＃目的地が見通せる視点場　＃休憩スポット　etc..

大阪梅田の賑わいが表出するまちのシンボルをつくる
（まちの魅力発信力・イメージアビリティ強化）

例： ＃関西を代表するターミナル駅同士をつなぐ場に相応しい顔づくり　＃賑わいが表出する広場的な空間　etc..

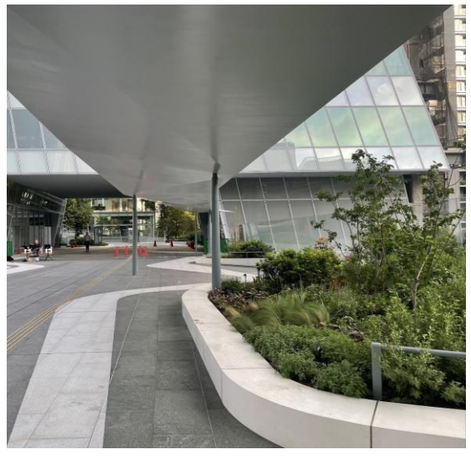
周辺のまちを見渡せる立地を活かし、通行機能に加え、現在地や行き先を確認できる空間を両側の滞留空間と連続して確保することで、駅間の移動を周辺のまちへの回遊につなげる役割

（参考）通行機能＋αの機能を持たせた事例

虎ノ門ヒルズ T-デッキ

国道上空のデッキにより、**道路で分断された街区や駅・広場を連続**させ、安全な歩行者ネットワークを形成。通行空間と**周辺の広場を一体的につなぐ**ことで、駅を利用する人が**周辺の街区へ移動しやすく、広場にもアクセスしやすい環境**をつくっている





国道15号品川駅西口駅前広場（北側）

国道15号上空を活用し、**駅と道、周辺のまちをつなぐシンボリックな駅前空間**が計画されている。道路管理者が**交通広場・センターコアを整備し、周辺開発と連携した歩行者ネットワーク**の形成が目指されている


新しい「日本の顔」となるシンボリックな空間


サービス機能を備えた待合空間（デッキ上）

出典：国土交通省「国道１５号品川駅西口駅前広場デザインコンセプト2026.3版」より

3 芝田地区における取組：JR-阪急連絡デッキの再整備 -駅とまちをつなぐ「まちの基準点」の形成-

■整備の考え方

「まちの基準点」の必要性・役割

・北東側の「まちの基準点①」については、大阪エリアで乗降客の多い3駅を相互につなぐとともに、かつ周辺のまちへの回遊拠点になり得るポテンシャルを有する。
・下記の3つの考え方に基づき、「まちに開かれた大きなコンコース空間」として、デッキレベルを中心に民地と道路空間を一体的に活用した空間整備をめざす。

駅と駅をわかりやすく快適につなぐ
（高い交通結節性）

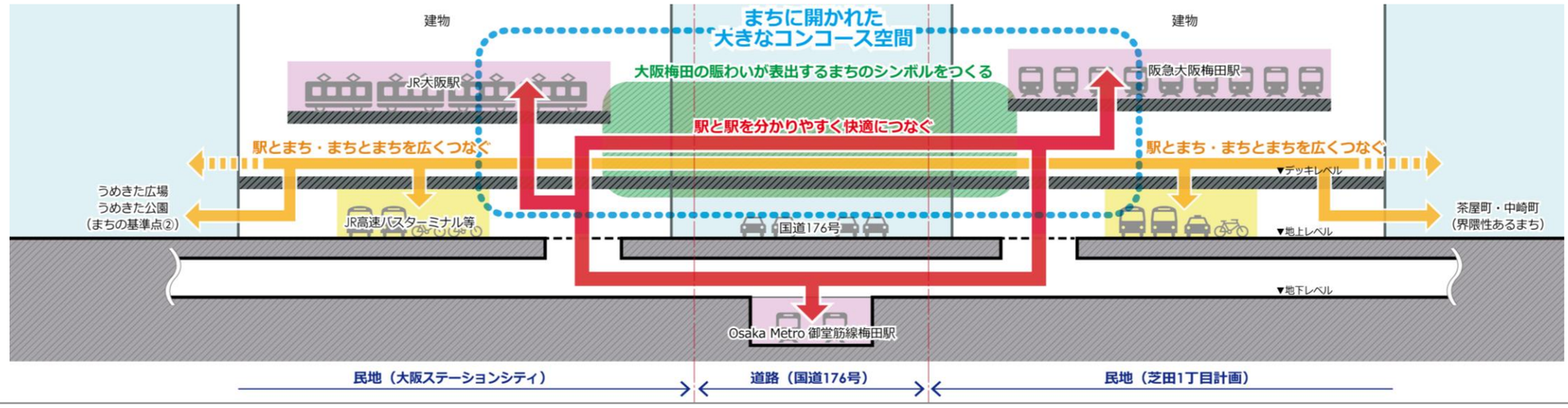
・駅間乗換客が円滑に移動できる空間づくり
・駅間を平面的、垂直的に分り易くつなぐ立体的な移動空間づくり

駅とまち・まちとまちを広くつなぐ
（まち全体の回遊促進）

・国道176号東西のまちを大きくつなぐ空間づくり
・移動体験そのものを楽しむ来訪者にも使いやすく、歩きたくなる空間づくり

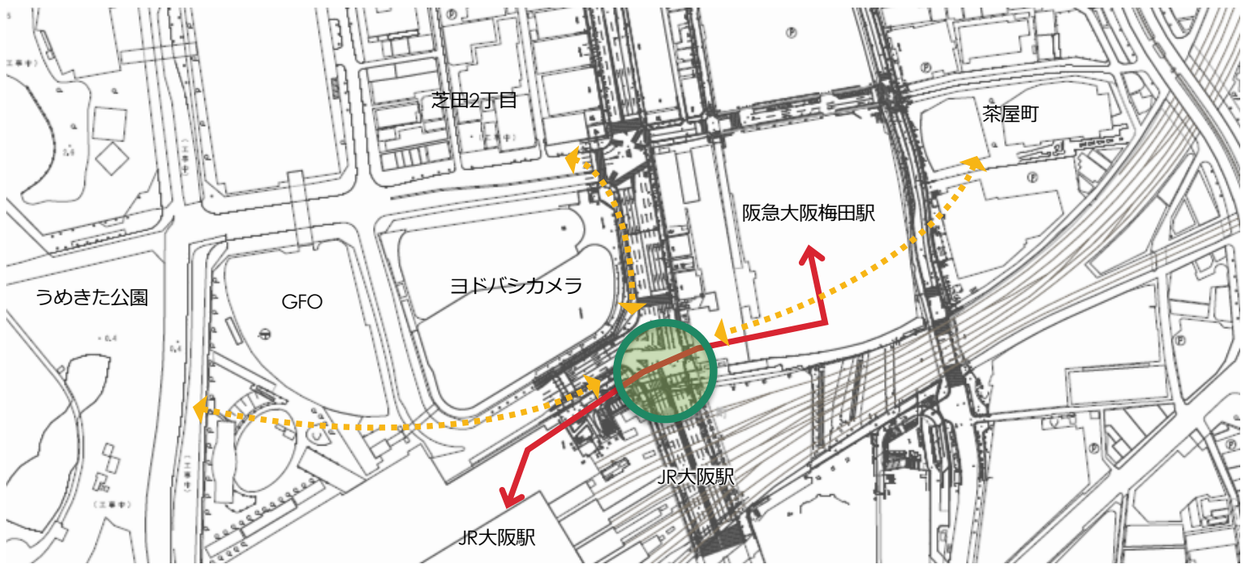
大阪梅田の賑わいが表出するまちのシンボルをつくる
（まちの魅力発信力・イメージアビリティ強化）

・まちの公共空間（公共性）を強化する、民地と道路空間を一体的に活用した、公共性の高い駅前の空間づくり
・高い視認性等を活かした、災害情報の発信や避難誘導等、非常時にも機能する防災性を備えた空間づくり



「JR-阪急連絡デッキ」の公共性

・安全で快適な乗換えと、駅・まちをつなぐ回遊を支えるとともに、憩い・交流・防災の機能を備えた「まちの基準点」として、大阪駅周辺地域の交通利便性・回遊性・防災性の向上に資する公共性の高い都市基盤をめざす。



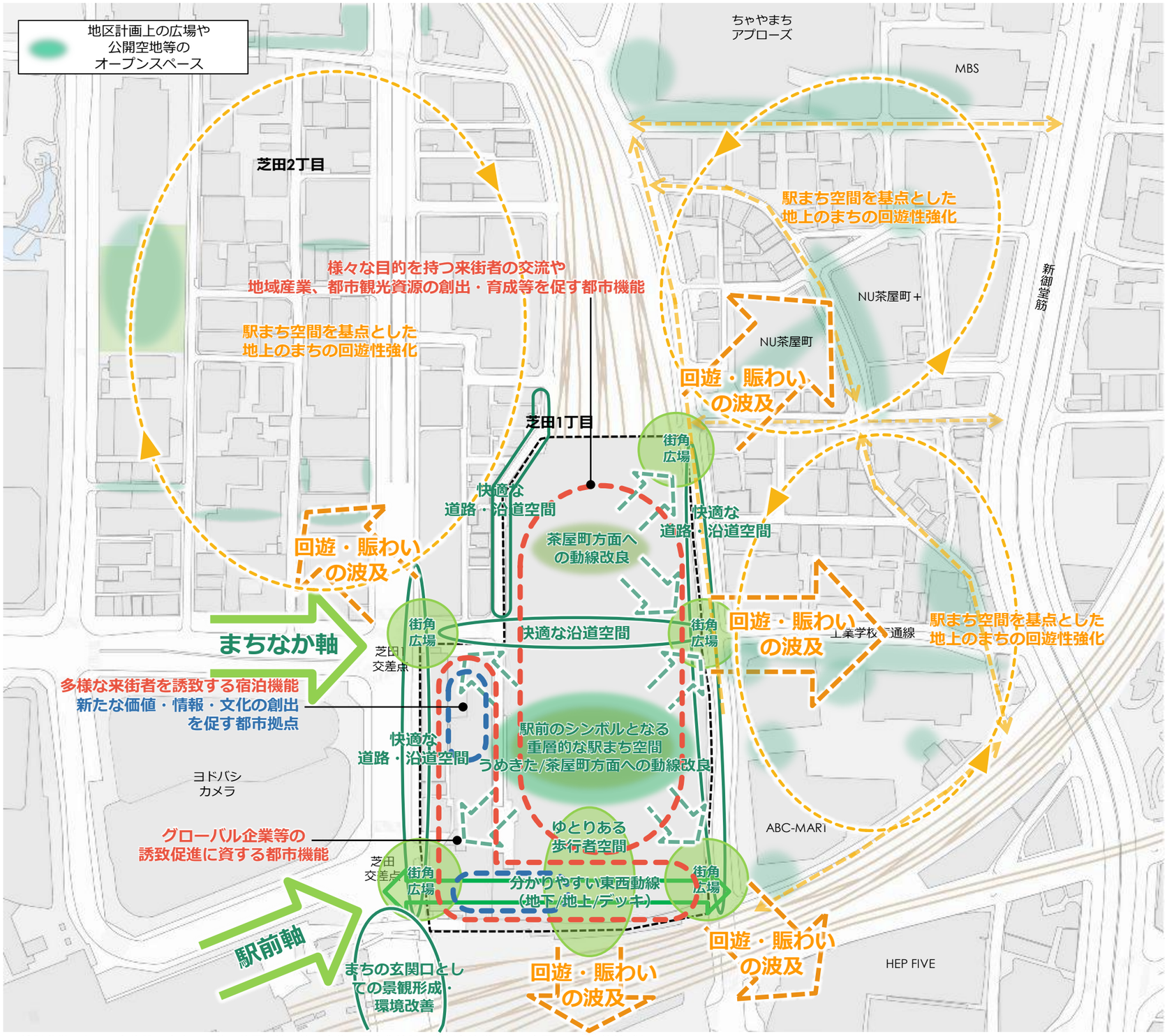
現況写真



※検討段階であり、各施設の内容、面積、位置、範囲等は今後の深度化検討、関係者協議により変更になる可能性があります

3 芝田地区における取組：**芝田1丁目計画による周辺のまちへの貢献**

■まちへの貢献イメージ



【取組イメージ】

① 多様な都市機能の集積

・様々な目的を持つ来街者の交流を促す都市機能の導入等により、茶屋町などの**駅東部エリアとの連携を強化し、周辺街区も含めた面的な賑わいを創出**する。

② みどり/人中心の空間づくり

・**梅田における人中心のまちづくり促進**に向けて、回遊性・滞在性の高い歩行者空間を整備することで、施設内外での予想外の出会いや癒しを通じて、新たな価値を創造につなげる。

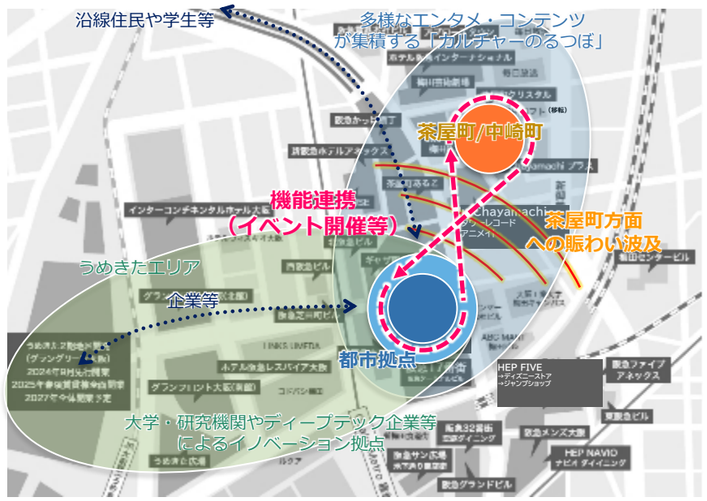
③ イノベーション拠点の形成

・都市魅力共創拠点の整備により、国内外から多様な人材・企業を誘引し、多様な人との交流及び相互作用から、**新たな価値・情報・文化の創出につなげる**。

回遊・賑わいの波及

・①～③の取組に加え、エリマネ活動等により**駅まち空間を基点に、周辺エリアへの更なる回遊・賑わいを波及**させ、エリア全体の価値向上を図る。

都市拠点整備による効果のイメージ



※検討段階であり、各施設の内容、面積、位置、範囲等は今後の深度化検討、関係者協議により変更になる可能性があります

3 芝田地区における取組：**芝田2丁目におけるまちづくりの動き**

芝田2丁目の将来ビジョンの共有

まちづくりの合意形成

地権者にて将来ビジョンを共有し健全なまちの更新の合意形成を図るための意見交換会

まちづくり意見交換会の開催状況

第1回	2023年7月	芝田2丁目地区の現況・課題、まちづくり事例等
第2回	2023年9月	容積率緩和手法とまちづくりビジョンの事例
第3回	2023年12月	まちの現状・将来像に関するご意見の振り返りとまとめ
第4回	2024年2月	芝田２丁目の将来像について
第5回	2024年6月	将来像・まちづくりの進め方に関するアンケートの実施

（主な議題）

第6回	2024年12月	アンケート（地権者ヒアリング）集計結果の中間報告
第7回	2025年3月	まちの将来像(案)、将来像案実現に向けた進め方の共有
第8回	2025年8月	まちづくり協議会規約の骨子、建替え手法、事例視察会
第9回	2025年11月	三ノ宮駅周辺、なんば駅周辺、淀屋橋駅周辺の事例視察
第10回	2025年12月	協議会設立に向けた規約案等、実証実験・事例視察の振返り

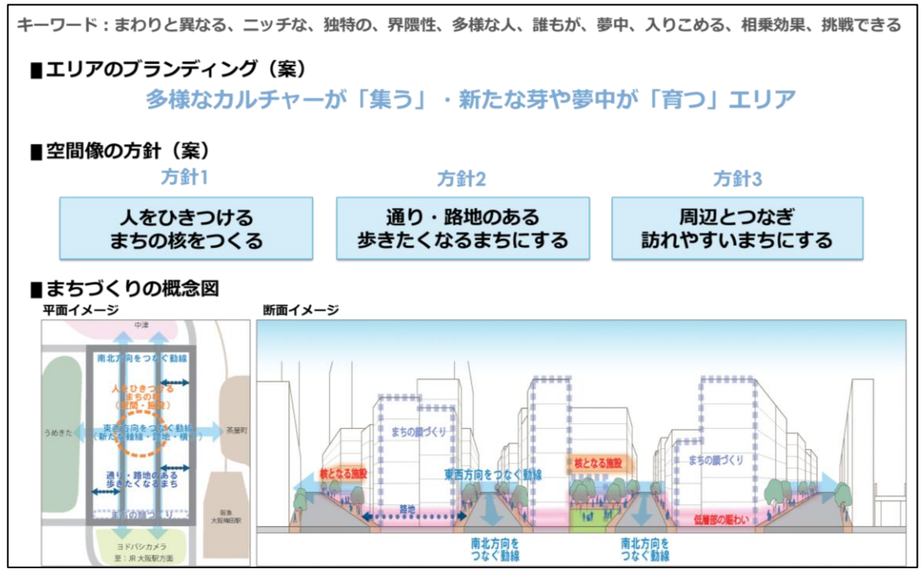
芝田二丁目まちづくり協議会

協議会活動との連携を更に強化

設立　：2026年3月5日
区域　：大阪市北区芝田二丁目
目的　：芝田2丁目の将来を考える意見交換会において検討したまちの将来像の具現化
会員　：地権者で構成
役員　：会長1名 / 副会長4名 / 監事2名
事務局　：UR都市機構

活動内容：
- 一 まちの将来像の深度化
- 二 将来像の具現化に向けた取り組み事項の検討・実施
  - ・まちづくりルール案の検討
  - ・ウォーカブルなまちづくりに向けた検討
  - ・共同化についての勉強
  - ・新たな機能導入に向けた検討
- 三 地区計画等の検討及び大阪市への提案
- 四 持続的なまちの運営に係る体制検討
- 五 その他協議会の目的にする活動

「芝田２丁目の将来を考える意見交換会において検討したまちの将来像」のイメージ↓



並行して実施

協議会活動として実施開始

地域活性化・エリアの色付け

地域コミュニティの醸成及び残し育てる資源と加える機能の発掘

UMESHIBA BASEでの活動

UMESHIBA BASE by UR運用
- 施設1階を芝田エリアの交流、共創拠点として、展示会、マルシェ、ワークショップ、音楽等様々な企画を実施する場所として活用
- 複数の共創コミュニティが自走化

屋上や壁面、敷地周りを活用した都市型菜園
- みどりの普及活動とともに植付けや収穫時のワークショップを通して、地域関係者の交流機会を創出
- 壁面で育てたホップや、上田学園の学生による、まちの将来への思いが込められたラベルデザインを使用した地域コンテンツ「うめしばビール」が誕生



地域コンテンツの発掘・磨き

- 地域の特色の一つである上田学園と地域関係者の連携による学生の創造的活動をまちへ表出する取組（「芝田XRハッカソン」など）を実施



地区内の公共空間を活用した実証実験

- 民地の路地、広場、ビル軒先、道路等の公的空間の魅力や使い方を検証（2020年から計6回実施）
- 地権者からの会場提供や地区関係者との実証実験の企画、出店など実証実験を通じて交流の機会を創出



協議会設立後は、将来像の具現化に向けて、ひと中心のまちのあり方、ウォーカブルなまちづくりや新たな機能導入等に関する議論を進めている。
今後は、まちづくりルールや地区計画、共同化等による実現方策も視野に入れながら、将来像の実現に向けた取組を具体化していく。

4　芝田地区における開発整備方針（素案）

4 芝田地区における開発整備方針（素案）

（大阪駅周辺地域の方向性）

①多様な都市機能の集積

（芝田地区の特徴）

・阪急大阪梅田駅を中心とした商業・業務機能の集積
・茶屋町をはじめとする文化/エンタメ施設の集積
・駅周辺に行き交う多様な来街者による賑わい・交流

（芝田地区の方向性）

駅を核とする商業/業務/宿泊機能の更なる集積と周辺のまちと連携した地区の魅力強化

②みどり/人中心の空間づくり

・地下・地上・デッキをつなぐ重層的な歩行空間が形成
・ビッグマン前広場等、回遊・交流・滞留を生み出す空間が点在
・うめきたのみどりと界隈性のある芝田2丁目等が近接

駅と芝田2丁目/茶屋町を重層的につなぎ、みどりのシンボル空間として回遊・滞在空間の形成

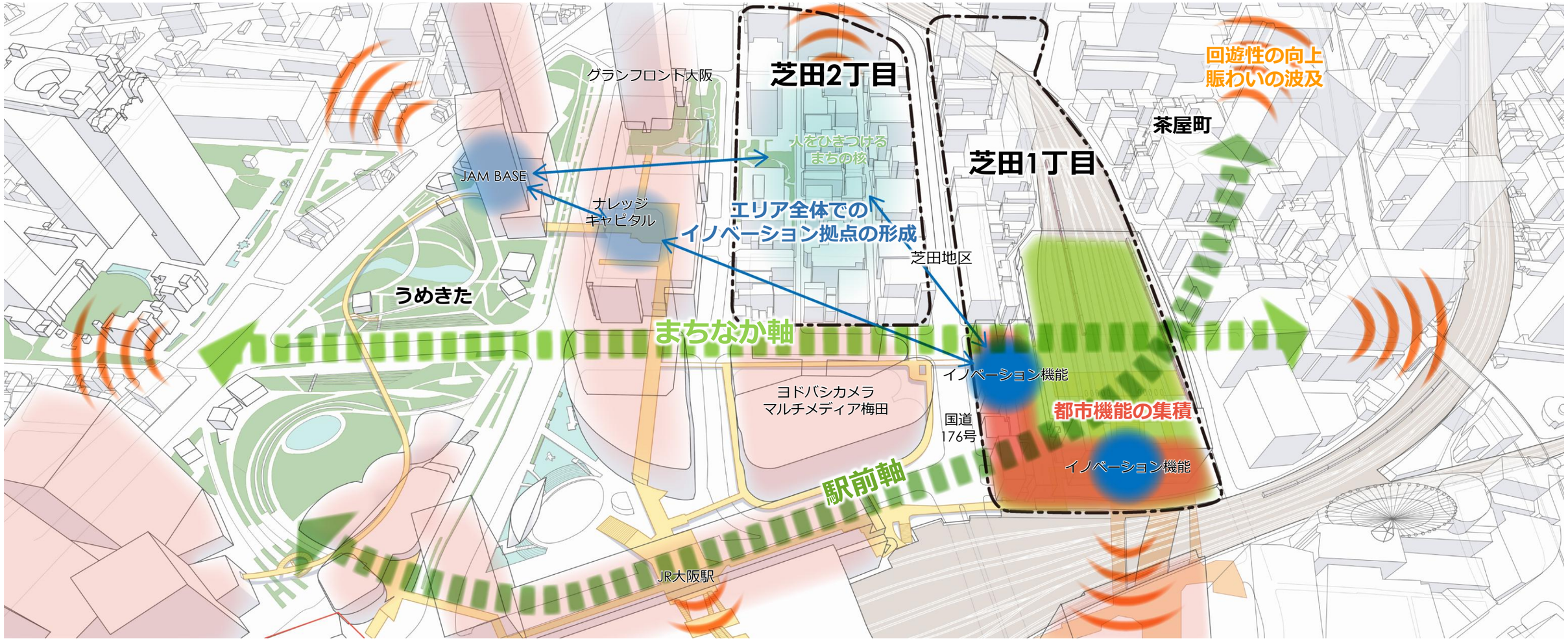
③イノベーション拠点の形成

・多様な来街者に新たなコンテンツを発信できる立地
・専門学校/小規模オフィス等の人材育成・地域活動基盤がある
・茶屋町界隈に広がる知的交流・文化活動との連携可能性

梅田ならではの新たなコンテンツの発掘・発信・育成に資するイノベーション機能の導入

（将来イメージ）

回遊性向上による賑わい創出と、みどり・イノベーション機能の連携により、うめきた・大阪駅等を含むエリア一体の相乗効果を最大化し、茶屋町等の周辺エリアへ波及効果を生み出す



開発整備方針の策定に向けて

（検討項目）

芝田1丁目計画の具体的な取組

芝田2丁目地区への波及方策